

開成元年十二月^{〔二七八〕}、同二年十月、同四年閏正月に朝貢せり、冊府元龜互市篇に載する所によれば、太和五年六月右龍武大將軍李甚貶せられて宣州別駕と爲されしが、其の理由は、甚の子が回鶻人に錢を借りて償はざりしが爲に、回鶻人に訴へられたるが爲にして、假令正當の訴訟なりしとは曰へ、當時尙如何に回鶻が唐に對して勢力を有したりしかの一面を窺ふに足るべし^{〔二七九〕}、唐が此の勢を轉じ、逆に回鶻に迫るを得るに至りしは、實に武宗の會昌年間以後の事に屬す。

第 三 期

第一章 烏介可汗に屬したる回鶻

回鶻の潰裂後の情態に就きては、諸書の傳ふる所錯雜を極め、之を一に歸せしむること甚だ困難なり、今以下順を追ひて其の事情を究めんとす、舊唐書廻紇傳には、其の分裂の有様を記して

有廻鶻相駁職者、擁外甥龐特勒及男鹿并邊粉等兄弟五人一十五部、西奔葛邏祿、一支投吐蕃、一支投安西、又有近可汗牙十三部、以特勒烏介爲可汗、南來附漢

と記し、新唐書回鶻傳には

其相駁職與龐特勒十五部、奔葛邏祿、殘衆入吐蕃安西、於是可汗牙部十三姓、奉烏介特勒爲可汗、南保錯子山と記せり、此の如く此の時回鶻の諸部は^{〔二八〇〕}、或は葛邏祿に或は吐蕃に、或は安西即ち龜茲に投じ、別に可汗の牙部十